# 令和元年度
# 学校関係者評価

日　　時：　令和２年２月２１日（金）15：00～17：00

場　　所：　大阪医療センター附属看護学校　１階会議室

参 加 者：　大学における教育の専門家
看護専修学校 副学校長
就職先施設 看護部長
卒業生
保護者

# 学校関係者評価結果

○令和２年２月21日　学校関係者評価規程に則り、５名の外部評価者による評価を受審した。
受審方法は、学校目標に対して過去３年間の経緯をグラフ等で示し、目標達成と今後の課題・取り組みについて意見交換を行った。

○学校目標とその結果

目標１．看護教育の質の向上
取り組み１）教員の教育実践力の向上に向けて
（１）学生の思考力・アセスメント力を強化する授業展開と評価・改善
（２）学生の到達度及び授業評価と結果の活用

結果：授業科目終了時に院外講師・専任教員ともに学生による授業評価（4段階）と教員自身による自己評価（4段階）をとっている。その結果、すべての院外講師の授業において2.8程度であり、過去２年間と比較すると低下している。教授内容・方法が変わっていないことから学生の欲求との乖離を感じる。一方専任教員による授業評価は全ての領域で3.3程度と比較的高い評価だったが、教員自身の自己評価は2.7程度と低く、教員が自分の授業に自信を持っていない様子だった。評価者からは、授業研究を３年目以上教員は実施しており、そのリフレクション内容からも授業の質向上にむけた取り組みが理解できるものであり、授業途中の評価を活用して教員自身がポジティブに取り組むと良いという助言を得た。

目標１．看護教育の質の向上
取り組み２）実習指導の充実に向けた臨床との連携強化として
（１）実習指導者と連携した実習前指導方法の活用と看護実践力の強化
（２）実習指導者育成の支援（指導者会議・実習指導者研修）
（３）ルーブリック評価の検討

結果：３年間の実習指導者会の取り組みを紹介し、年度の目標に向けて活動できている状態であること及び臨床との連携が充実していることなどに高い評価を得た。卒業後の活躍状況から、思考力を強化する学びの必要性について助言を頂いた。ルーブリック評価の取り組みは、次年度に充実させる予定である。

目標１．看護教育の質の向上
取り組み３）教員の専門領域のキャリアアップ
（１）授業研究の実施及び他校での公開授業への参加
（２）実務研修の実施
（３）計画的な研究活動と学会発表

結果：国立病院機構の強みを活かした、他校との公開授業などは有効だと考えられる。教員は看護師長と同等のポジションにあり、看護管理能力も求められることから実務研修では管理的学習と共に教育内容に還元できるよう訪問看護ステーションでの研修を実施している。学校の取り組みとして、課題となるのが教員の研究活動が進まないことである。評価者からは研究活動を教員のラダーに組み込むことで実績数が増加するなどの助言があった。また、研究を行うにあたり、病院の倫理審査委員会にかけることも大きなハードルになっている現状に対して、学校独自の倫理審査委員会の設立を助言いただく。次年度は５校での教育研究倫理審査体制を整えるように活動する。

目標２．主体的・学習力と思いやり行動を身につけた学生の育成
取り組み１）アクティブラーニング等、学生に応じた学習方法の支援
２）教科外活動の支援を通じた教育理念の浸透

結果：教科外活動である行事関連はもっと多くの一般参加者を集めたいと学生は思っている。地域への発信を検討していく。コミュニケーション研修として宿泊研修を継続しているが、2 年前から研修場所を変更し、自立した活動が求められる内容にした。体験した学生からのアンケート結果は好評である。

目標３．コミュニケーションが良好で相互協力体制が充実した教員組織の構築
取り組み１）教員間の業務調整によるタイムリーな学生支援体制
２）良好なコミュニケーションと相互協力を通して教育観の醸成

結果：当校では担任制にして、全教員が担当学年に入っている。学年間の連携を密にすると共に毎週教員会議を開催し、情報の共有と課題解決に取り組んでいる。1 年間の教員会議テーマを整理することで業務内容の振り返りと次年度の予測ができた。また 17:00～18:00 に技術指導教員を実習室に配置しており、その指導内容と学生の個別練習状況が把握できた。内容と時期に偏りがみられることから次年度は予約制を検討する。勤務内における業務調整を実施することで超過勤務が著しく減少し月平均１～２時間になっている。年次休暇平均取得は 7.8 日であり、過去 2 年間と比較すると減少しているものの、教員定員が 2 名不足している状況ではあるが、情報共有により効率的な業務が遂行できていると評価できる。次年度は授業準備時間の確保状態と研究活動の時間確保について推進できるよう取り組む予定である。

目標４．国立病院機構及び社会に貢献できる学生の確保と育成
取り組み１）効果的な学生募集活動
２）国立病院機構への帰属意識の醸成
３）国家試験合格率 100%維持にむけた学習支援

結果：2019 年度オープンキャンパスは 6 回（公開授業 2 回含む）実施し、参加者の合計は 684 名（うち保護者 220 名）で、過去 3 年比較すると年々増加している。在校生の協力が好評であり、効果的な学生募集活動になっている。社会人入試の応募も多く、2 年間倍率 4.6 倍となっている。これは、専門実践教育訓練給付金制度の指定講座を受けていることが効果的だと考えられる。卒業生の 74%が国立病院機構に就職しており、目標を達成している。退学率は低く、年間１～2 名が進路変更を理由に退学している。国家試験合格状況はこの 2 年間 100%、3 年前の不合格者 2 名は翌年に合格し、看護師として活躍している。目標は達成している。

目標５．カリキュラム改正(2022 年)に向けた準備
取り組み１）カリキュラム評価の再検討
２）検討会報告書の理解と学校における検討会の開催
結果：4 月から毎月 1 回、副学校長・教育主事・学年代表教員の 6 名でのプロジェクトを開催した。この会議で教員全員がどのような検討しながら進めるか、進行方法を決めた。カリキュラムに対する理解を統一するためにプロジェクトメンバーが学年担当教員とディスカッションし、進めてきた。次年度は具体的な教育目標・授業科目・進度等について改訂カリキュラム編成に取り組む。

【2019年度　看護学校関係者評価　総評】

〇授業評価について、評価内容（項目及び評価基準）を検討していく

〇教員が自己効力感・モチベーションを高めることができるような学校組織としての取り組みを検討していく

〇研究活動ができる環境を整備していく

・研究に伴う倫理審査委員会を病院とは別組織として立ち上げる

・研究のための時間を確保する

〇学生の活動（看護の日・学校祭）行事関連を開催する際には、地域からの参加者を増やせる取り組み・支援を進めていく

## 授業評価結果・分析

### １．分野別授業評価結果（院外講師・院内講師・教員）

（評価4点満点での平均）

H28年度 n=313（１学年 82名、2学年 115名、3学年 116名）
H29年度 n=275（1学年 78名、２学年 82名、３学年 115名）
H30年度 n=245（1学年 83名、2学年 79名、3学年 83名）
R1年度 n=249（1学年 87名、２学年 83名、３学年 79名）

1）院外講師評価

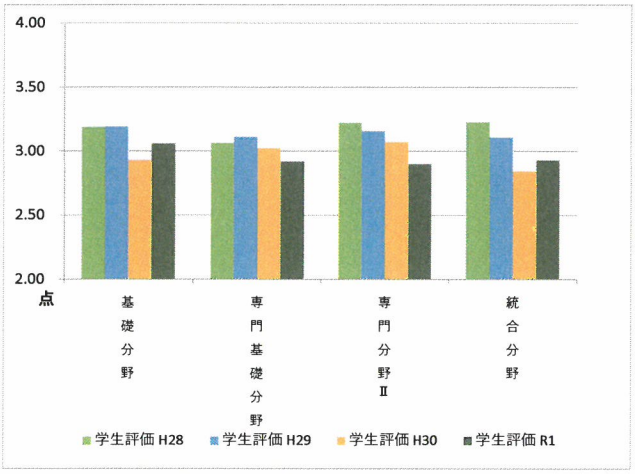



図1－①＜院外講師の授業に対する学生評価＞

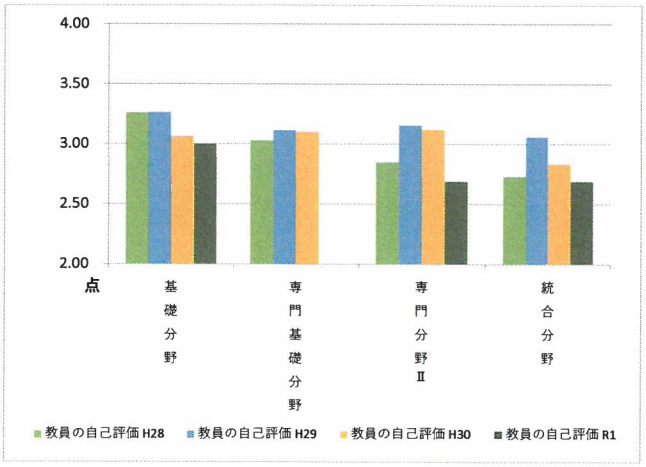



図１－②＜院外講師の授業に対する講師自己評価＞

2）院内講師評価

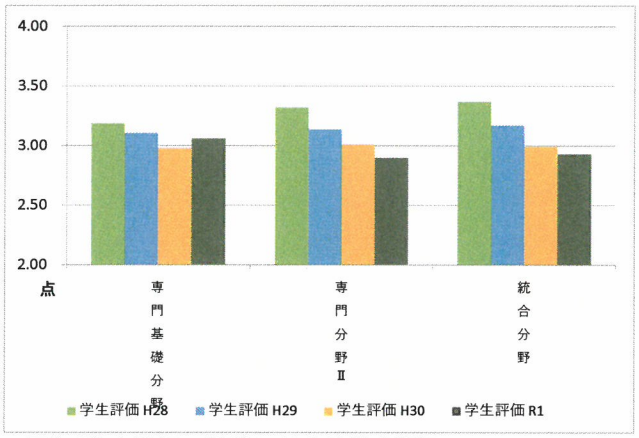



図2＜院内講師の授業に対する学生評価＞

＊院内講師（医師）は自己評価データがないため、学生評価のみ

| 評価基準 |
|---|
| ４点：大いにそう思う |
| ３点：そう思う |
| ２点：ややそう思う |
| １点：全く思わない |

3）教員評価

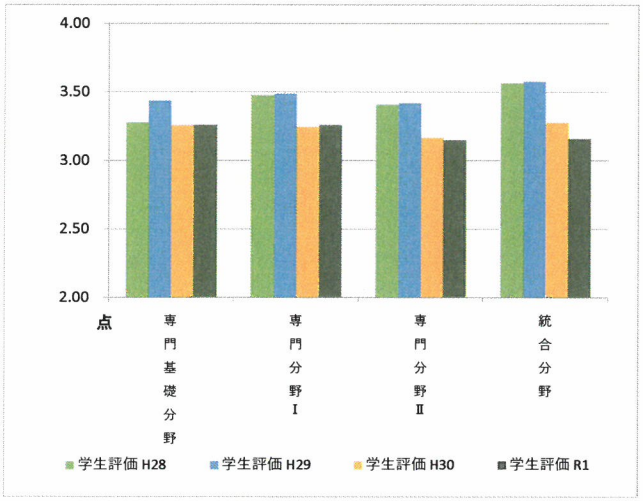



図3－①＜教員の講義に対する学生評価＞

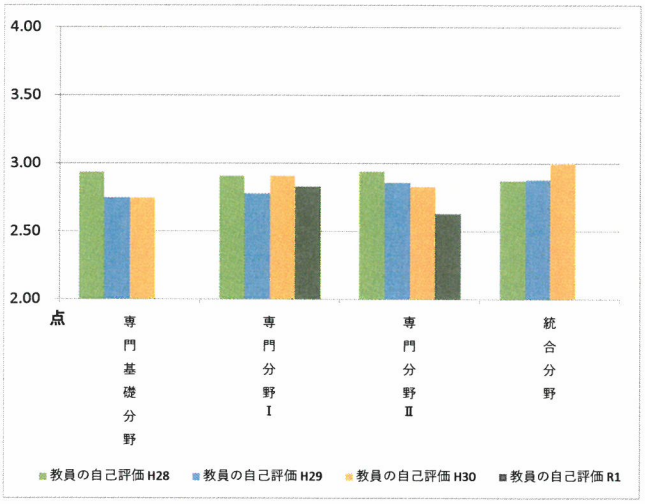



図3－②＜講義に対する教員の自己評価＞

平成28年・29年度評価は全ての分野において3.0以上であったが、平成30年度は全ての分野において低下がみられる。平成29年度から30年度にかけて担当講師の変更はなく、授業内容や方法も同じであったことから、評価する学生のレディネスや評価に対する基準が影響していると考える。平成31年度は終了している基礎分野、専門基礎分野の評価が3.0以上となっている。昨年度とは担当講師が変更している科目もありより分かりやすい授業になったと考えられる。教員自身の評価は学生評価より評価が低い科目が多く、各教員の目標が高いと分析できる。

4）教育内容別評価　（4点満点の平均）

＊H31の評価については令和2年2月18日現在

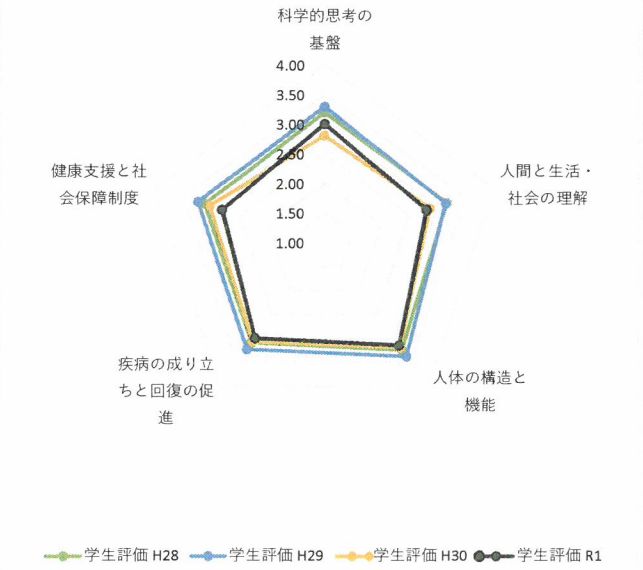



図4－①
＜教員の講義に対する学生評価：基礎・専門基礎分野＞

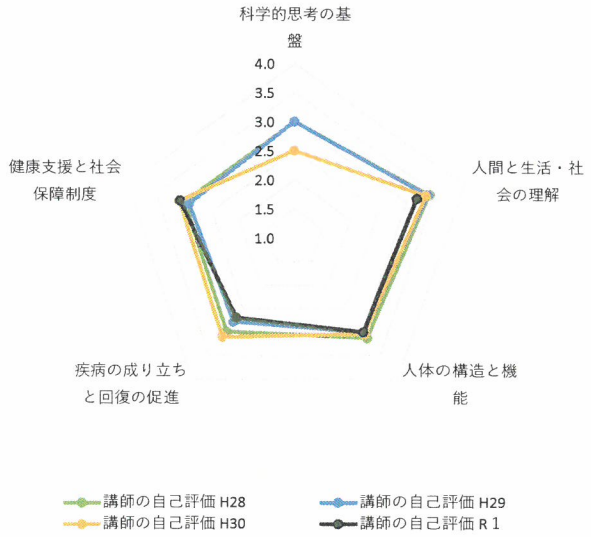



図4－②
＜講義に対する教員の自己評価：基礎・専門基礎分野＞

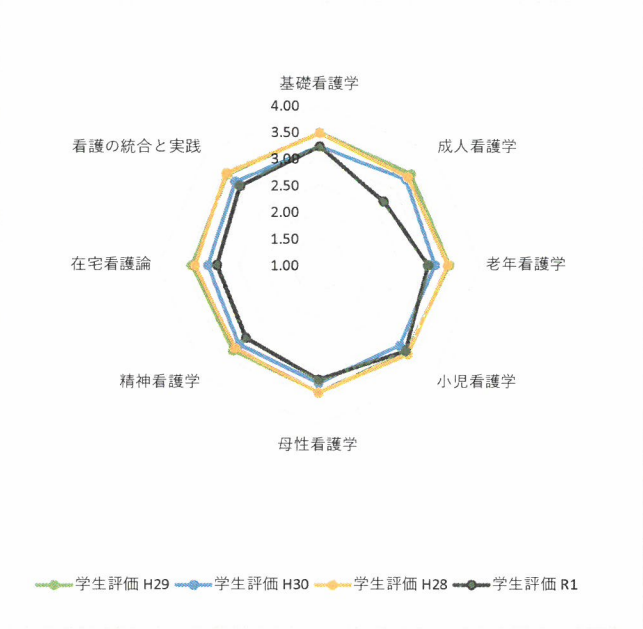



図4－③
＜教員の講義に対する学生評価：専門分野Ⅰ・Ⅱ、統合分野＞

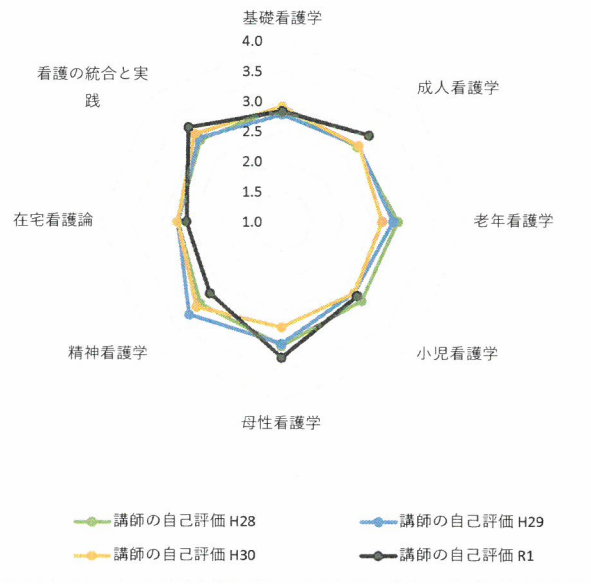



図4－④
＜講義に対する教員の自己評価：専門分野Ⅰ・Ⅱ、統合分野＞

教育内容別評価

基礎・専門基礎分野において学生評価は「健康支援と社会保障制度」が全体より少し低下している。公衆衛生や関係法規など学生が苦手とする学習内容が評価に影響していると考える。また、「人体の構造と機能」、「疾患の成り立ちと回復の促進」は入学し始めて専門性の高い講義が多く、専門用語の難しさや学習範囲の広さが評価の満足度に影響していると考えられる。専門分野・統合分野は集計途中であるが成人看護学の評価が大きく低下している。担当教員の教授方法について分析中である。専門分野、統合分野の学生評価が3.0以上得られているのは、学生の思考・アセスメント力を強化できるような事例を用いた演習やOSCEを取り入れ、DVDを用いる科目が多く有効だと考える。専門分野では、精神看護学の講師の自己評価が低下しているが、その理由として今年度は担当講師が変更となり講義方法を模索されていたためと考えられる。

今後、学生がイメージしやすい教育内容・方法について、講師との連携・調整することや、学生が学習の位置づけを理解したうえで、授業や課題が学生の理解につながるように働きかけていく必要がある。

# 2019年度　授業研究　実施状況

| 講義日 | | | リフレクション日 | 科目名 | 授業内容 | 授業方法 | リフレクション内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6月27日<br>6月28日 | 木<br>金 | 1限<br>3限 | 7月4日<br>13:30～ | 生活援助技術Ⅰ | 10回目:移動の実際 | 演習 | ・写真で確認することで、自身の動きを視覚的にとらえることができていた。演習の途中でリフレクションすることで、到達状況が把握でき、出来ていないことが明確になり次につなげることが出来ていた。<br>・写真ではなく、動画を用いる方が動きが分かりやすいため、今後も教材の工夫が必要。 |
| 7月16日<br>7月17日 | 月<br>火 | 1限<br>1限 | 7月17日 | 看護基本技術Ⅱ | 4回目:バイタルサインの観察(触診法) | 演習 | ・ゴム嚢のたたみ方やマンシェットの巻き方が見えにくいとことがあった。<br>・上腕動脈の触知の仕方もポイントが分かりにくい。見やすい工夫が必要。<br>・血圧測定時の環境を整える事ができるよう講義の内容の検討が必要。 |
| 7月23日 | 火 | 1限<br>2限 | 7月23日 | 生活援助技術Ⅱ<br>清潔・衣生活 | 14回目:口腔・鼻腔吸引の実際 | 演習 | ・根拠に基づいた理解として、既習学習である感染・清潔という点がつなげられた方がよい。<br>・学生の意見から、何故そのことが必要なのかを考えさせると、根拠につながる。 |
| 9月20日 | 金 | 1限<br>3限 | 9月20日<br>14:50～<br>15:10 | 看護基本技術Ⅰ | 14回目:看護場面でのコミュニケーション③<br>(環境を考慮した・意図的な) | 演習 | ・学生が全員実施できたが、情報がつながっていることに満足して終わらないように、環境や自らの立ち位置など看護技術のポイントを押さえる必要があった。<br>・タイムプレッシャーがあり、やや学生の混乱があった。<br>・学生の気づきをフィードバックしていたが、まとめの配置を変更するとよりよかった。 |
| 10月8日 | 火 | 3限<br>4限 | 10月10日<br>13:10～<br>13:30 | 成人援助論演習 | 4回目:胃切除を受けた患者の看護<br>生体反応の理解 | 講義 | ・学生個々の事前学習の関連図を活かした授業の進め方を再検討する必要がある。<br>・発問に対する学生の返答を活かす必要がある。<br>・学習目標と教育内容の精選を行っていく。 |
| 1月7日 | 火 | 1限<br>2限 | 1月7日<br>15:30～<br>16:00 | 小児主要症状別援助論 | 11回目:循環器系に障害のある患児と家族への看護<br>(ファロー四徴症)<br>消化器系に障害のある患児と家族への看護<br>(肥厚性幽門狭窄症) | 講義 | ・学生と教員の思考に差がありすぎる<br>学生のイメージ化が十分に行えていない状態で講義やワークが進んでいたため、意見や学びに差が生じていた<br>⇒教材研究、教材の工夫を強化し、学生に小児や小児看護の場面をイメージさせた状態で考えさせる必要がある<br>・学生に対する指示を明確にする必要がある<br>(個人なのかペアなのか、時間も示す必要がある) |
| 1月8日<br>1月21日 | 水<br>火 | 3限<br>1限 | 1月21日 | 生活援助技術Ⅲ<br>排泄 | 10回目:排便障害時の援助:摘便(演習) | 演習 | ・安全に行うという点をしっかり学ぶ必要があることからも、解剖を想起させて学ばせるような工夫があった方が良いのではないか。<br>・方法だけでなく、そのことがなぜ必要なのかという点を押さえていくような発問となる方が理解が深まるのではないか。<br>・てきるんの使用方法・便の量・おむつといった必要な教材の準備や使用方法の理解をしっかりしておくことが必要である。 |
| 1月30日 | 木 | 3限<br>4限 | 2月3日<br>13:13～<br>13:50 | 医療安全 | 7回目:看護技術(診療補助技術)のリスクと安全 | 演習 | ・指導目標と演習内容を一致させ内容・方法を考える必要がある。(教材観の構造化)<br>・物品や学生の演示が見えるようにカメラで手元を映すなど場所や見せ方を工夫していく必要がある。<br>(ベッドサイドでしかできないことや視聴覚室の方が良い内容事など)<br>・複数講師で担当しているため、前回までのつながりをよく考えて構成していく。 |
| 2月10日<br>2月12日 | 月<br>水 | 2限<br>4限 | 2月13日<br>13:15～<br>13:35 | 診療援助技術Ⅰ | 9回目:気管内吸引 | 演習 | ・1年生の学習内容として押さえる必要のあることを精選する必要性がある。気管内吸引の技術として観察や患者への配慮を学習目標に挙げていたが、1年生にとっては難しいないことであったと考える。<br>・デモストの見せ方の工夫が必要。<br>・演習にあたって学生への事前課題の提示が課題。(手順や根拠など事前に取り組ませる) |
| 2月25日 | 火 | 1限<br>2限 | | 成人経過別援助論 | 7回目:回復期看護に活用する理論と看護 | 講義 | |

目標1:看護教育の質向上

教員の教育実践力の向上・専門領域のキャリアアップに向けて、学校内で授業研究を実施。全教員が1回/年実施している。

各自が教育実践力を強化したい内容について意図的に授業に組み込み実施した内容について、リフレクションによって評価し、今後への課題が明確になっており、看護教育の質向上につながっていると考える。

実習指導者会

1．目標　　臨地と学校との連携を強化し、効果的な実習指導を実践する

2．活動目標と活動内容

| | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---|---|---|---|
| 活動目標 | 1)ティーチングスケジュールや指導案を活用した実習指導ができる<br>2)指導案を活用した実習指導を行うことで、自己の実習指導を振り返り、その評価ができる<br>3)学生の看護技術習得のための指導方法を検討できる | 1) ティーチングスケジュールや指導案を活用した実習指導を行うとともに自己の実習指導の評価ができる<br>2)思考発話法を用いた実習指導を行い、学生の臨床判断能力を培う指導が行える<br>3)学生のレディネス把握と学年に応じた看護技術習得のための指導方法を検討できる | 1)実習前演習の参加を通して、学生のレディネスが把握できる<br>2)学生の特徴を理解し、指導方法を検討できる<br>3)実習評価について理解を深め、指導内容・方法の選定ができる |
| 活動内容 | 1)について<br>・日常生活援助実習の指導案（週案）作成<br>2)について<br>・技術指導案を活用したロールプレイングの実施と指導内容の明確化<br>・技術指導における指導案の評価・修正<br>・指導案を活用した実習指導評価<br>・学生の実習評価から考える自己の実習指導に対する評価<br>3)について<br>・日々の振り返りのカンファレンス方法の検討<br>・学生のインシデント事例を用いた指導方法の検討 | 1)について<br>・自己の実習指導に対する評価<br>・実習指導案（週案の見直し）<br>2)について<br>・効果的なカンファレンス方法（思考発話）の検討（1回目はレジメ作成指導、2回目はロールプレイ）<br>・思考発話法を用いた場面指導の検討<br>・気づきのトレーニング（視聴覚教材事例をもとに指導方法の検討）<br>3)について<br>・日常生活援助実習オリエンテーション（実習前研修参加）によるレディネス把握と指導方法の検討<br>・看護基本技術実習Ⅰオリエンテーション（実習前研修参加）コミュニケーション場面の検討 | 1)について<br>・日常生活援助実習オリエンテーション（実習前研修参加）によるレディネス把握と指導方法の検討<br>・看護基本技術実習Ⅰオリエンテーション（実習前研修参加）コミュニケーション場面の検討<br>・成人回復期・老年慢性期実習オリエンテーション（実習前研修参加）によるレディネス把握と指導方法の検討<br>2)について<br>・効果的なカンファレンス方法の検討<br>3)について<br>・ルーブリックを用いた評価<br>・領域別実習における課題と指導方法（経験させる内容）の評価 |
| 講演会開催<br>（参加人数） | テーマ：「実践的思考力の育成に向けた実習指導」<br><br>H29.9.30 13:00~16:00<br>（６０名） | テーマ：「臨地実習における評価について」<br><br>H30.7.21 13:00~16:00<br>（５８名） | テーマ：「臨地実習におけるルーブリック評価作成の理論と実際」<br><br>R1.8.31　13:00~16:30<br>（３６名） |

＜実習指導者会について＞

Ｈ２９年はティーチングスケジュールの作成に取り組み、日常生活援助実習の実習指導案が完成した。Ｈ３０年は思考発話法を取り入れた指導方法に取り組み、気づきのトレーニングをしながら学生のおかれている状況を想像しながら援助の見せ方、気づかせ方を検討した。カンファレンスや実習指導者の見学場面で思考発話を意識しながら活用するようになった。Ｒ１年はルーブリックによる評価に取り組み、評価の考え方が深まった。活動目標は毎年、前年度の結果を踏まえて設定し、活動内容は実習指導者のニード（アンケートや聞き取り）を考慮して計画している。オリエンテーションを兼ねて実習前に実習指導者が患者役や指導者役として参加する実習前研修は、学生と実習指導者が場面を共有し、互いの刺激となっている。実習指導者からも実習前に学生の状況を知り、受け入れに備えられた（スタッフへの周知・学生の緊張緩和など）という意見も多く聞かれる。実習指導者は年度によって交代もあるがいつも熱心であり、検討した内容は病棟に持ち帰り、実践している。年に１回特別講演を開催し、臨地とともに学習する機会を設けている。講演の内容を実践に活用できるよう実習指導方法検討の際に講演内容を組み込み、講義資料を振り返って活用している。カリキュラム改正に向けて、事前学習の内容や多職種連携の学ばせ方についても今後、実習指導者会と連携して取り組んで行きたいと考えている。

実習指導者研修

1．目的

実習施設における実習指導者の任にある者（以下、実習指導者）または実習指導者を補佐する者が、実習の意義及び実習指導者としての役割を理解するともに、効果的な実習指導を行うために必要な知識・技術および態度を修得することを目的とする。

2．目標

1）科目としての実習の位置づけと意義を理解できる。
2）看護教育における実習指導者としての役割を理解できる。
3）看護師に必要な実践能力を育成するための効果的な実習指導について理解できる。
4）実習指導者の教育的介入に必要な知識・技術および態度を修得することができる。

3．研修対象：近畿グループ　20 施設　実習指導に携わる看護師及び助産師

4．研修内容：Ⅰ　看護学校の教育課程（講義）
Ⅱ学生の理解（講義）
Ⅲ実習指導者の役割（講義）
Ⅳ各看護学実習の理解（講義）
Ⅴ評価の基礎知識（講義）
Ⅵ実習指導方法（講義・グループワーク）
Ⅶ実習指導者に求められる資質

5．受講状況

| | 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 令和元年度 |
|---|---|---|---|
| 実施日時 | A コース<br>①平成 29 年 6 月 12 日（月）<br>14:00~17:00<br>②平成 29 年 6 月 26 日（月）<br>14:00~17:00<br>③平成 29 年 7 月 11 日（火）<br>13:00~17:00<br>B コース<br>①平成 29 年 7 月 5 日（水）<br>10:00~17:00<br>②平成 29 年 7 月 18 日（火）<br>13:00~17:00 | ①平成 30 年 6 月 14 日（木）<br>10:00~17:00<br>②平成 30 年 6 月 21 日（木）<br>13:00~17:00 | ①令和 1 年 6 月 13 日（木）<br>10:00~17:00<br>②令和 1 年 6 月 20 日（木）<br>13:00~17:00 |
| 受講人数 | A コース<br>2 名<br>B コース<br>17 名 | ①　23 名<br>②　20 名 | ①　22 名<br>②　18 名 |
| 内訳：院内 | 4 名 | 0 名 | 6 名 |
| ：他施設 | 13 名 | 23 名 | 16 名 |

＜実習指導者研修について＞

母体病院の実習指導体制は実習指導者講習受講修了者が担当している。本研修には次期候補者や実習指導に興味・関心のある看護師が院内より参加している。院外実習施設を中心に他施設に案内を送り毎年、５～６施設から２～４名の参加希望がある。受講後には参加者の95~96%が実習指導者の役割への興味関心があるという結果が出ている。学校と臨地が連携する必要性を考える機会となっており、学生要因だけでなく、実習を受け入れる施設要因も学生の成長に大きく影響していることを実感している。今後も、実習指導者として活躍する人材を育成する中心的施設として研修を継続していきたい。

ルーブリック検討

1．目的

看護に必要とされる総合的な能力を育成するための教育内容を明らかにする

2．目標

1）看護に必要とされる本質的な能力を抽出できる

2）ルーブリックを作成する過程を通して指導と評価に対する考え方が深まる

3）ルーブリックを活用し学生と目標・課題を共有できる

4）ルーブリックを活用し教員間の評価のずれをなくす

3．取組内容

| 日時 | 内　容 |
|---|---|
| H30.7.21 | 講演会開催<br>テーマ「臨地実習における評価について」 |
| R1.7.24 | 実習指導者会<br>日常生活援助実習評価項目のうち数項目についてルーブリック作成　グループワーク |
| R1.8.31 | 講演会開催<br>テーマ「臨地実習におけるルーブリック作成の理論と実際」 |
| R1.12. | 看護技術総合演習の科目においてルーブリックの作成<br>OSCE にて　ルーブリックによる評価実施 |
| R2.1～ | 小児看護学実習の科目においてルーブリックの作成中<br>日常生活援助実習の科目においてルーブリックの作成中 |

＜ルーブリック検討について＞

学校教員だけでなく、臨地とともに考える機会を持ち、実習指導者の関心も高まった。実習においてはまだ作成段階であるが、活用できると学生・実習指導者・教員間で何ができて何が不足しているのか共通認識でき学生の意欲的な学びにつながることと期待する。

看護技術総合演習（OSCE）での活用は、学生が技術練習する際の指標となり、OSCE で目的としていたアセスメントや優先順位の判断など学生の思考や行動力、態度について評価することができた。まだ教員の知識は浅く、今後も検討が必要であるが、ルーブリックの作成に取り組む過程において、各科目の本質を考え、指導と評価を一体化させながらディスカッションすることは教員の教育力向上に役立っていると言える。現在作成中の臨地実習評価のほか、技術試験についてもルーブリックを取り入れ手順だけでなく相手に対する安全で安楽な技術として技術習得できるよう検討していきたい。

# 教員の研究業績

2019年度

| | テーマ | 学会名 | 場　所 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|
| 研究業績 | 実習指導者に対する実習オリエンテーションの工夫 | 第73回国立病院総合医学会 | 名古屋 | 11月8日 |
| | シミュレーションを活用した卒業前医療安全研修の効果 - 研修過程評価スケールによる分類 - | 第73回国立病院総合医学会 | 名古屋 | 11月8日 |
| | 卒業生の早期離職防止に向けた支援方法の検討 | 第73回国立病院総合医学会 | 名古屋 | 11月8日 |

教員それぞれが、日々の教育活動の中に課題を見出し、専門分野の研究に関する最新情報を収集し、教育に活用できるよう日々取り組んでいる。平成29年度までは、近畿グループ病院附属看護学校5校の教員が合同グループで研究活動を行っていた。しかし、学校が異なることで集まって活動することが難しい状況にあり、平成30年度より各学校単位で活動する方向に移行してきている。今年度から研究活動ができるよう活動時間を勤務時間内に設定され取り組んでいる。また、教育主事や大学の先生から指導を受ける機会があり、研究に対する支援も充実している。

# 学校関係者評価資料　大阪医療センター附属看護学校　教科外活動について

教科外活動とは、教科（講義・演習・実習）以外に看護師になるために視野を広げ、必要な能力を育成するために、学校行事に加えて学年毎に設定している活動である。また、学生自治会活動は、学校生活が円滑に進むように企画・運営しているものである。

（単位：時間数）

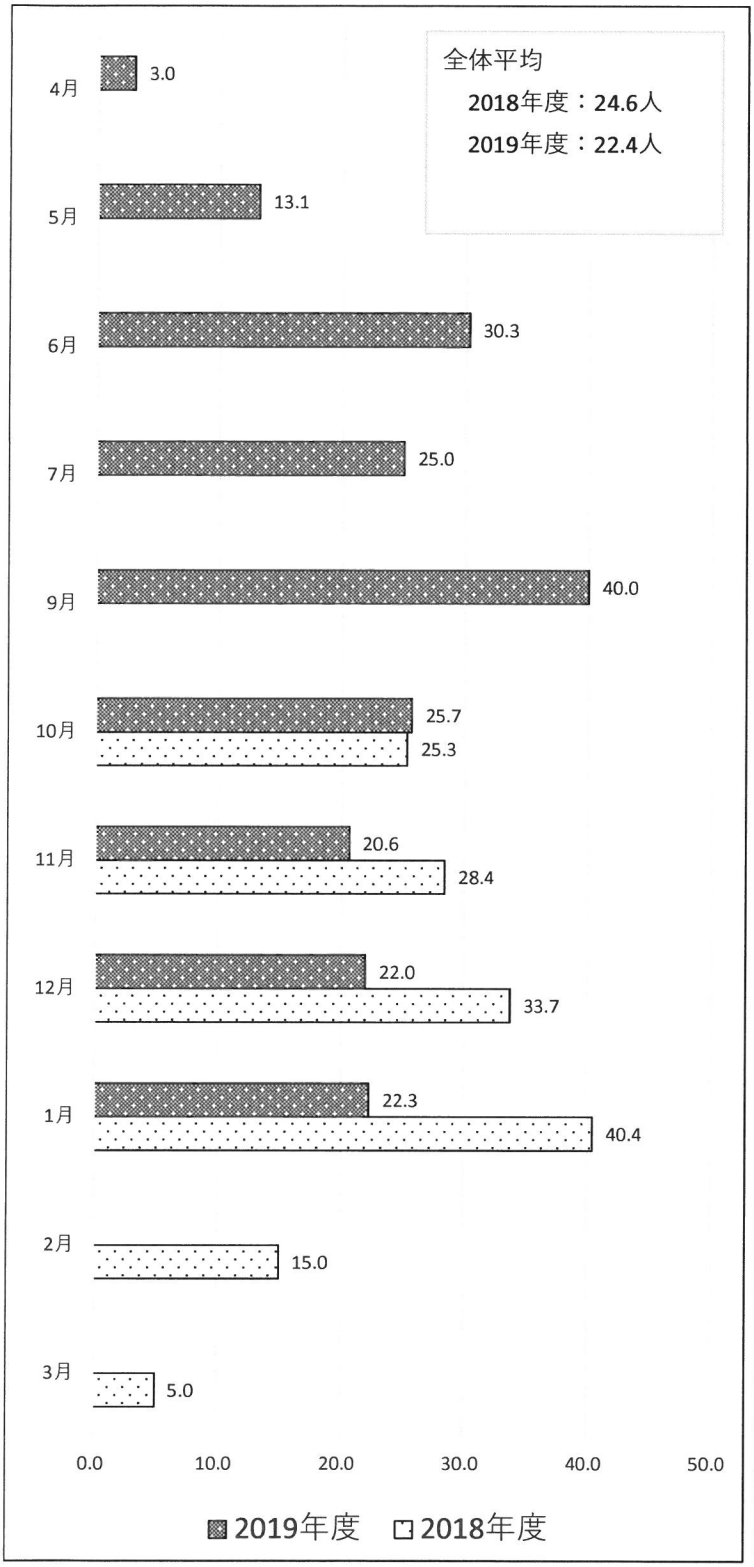
| 項目 | | ねらい | 学年 1年 | 学年 2年 | 学年 3年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 特別教科外活動 | コミュニケーション研修（宿泊研修） | ・看護に必要な人間関係の基盤となるコミュニケーションについて学ぶ。1泊の宿泊を通して、学生間の相互理解を深める。 | 15 | | |
| | セーフティネット医療関連 | ・国立病院機構が担う医療分野の内容と行われている看護の特徴について学び、セーフティネットにおける看護が実践できる基礎的能力を養う。自己が将来活躍する看護を考えることができる。 | | 28 | |
| | | セーフティネット医療について（講義・見学） | | 4 | |
| | | 神経・筋疾患の看護 | | 2 | |
| | | 重症心身障害児（者）の病態と看護の特性 | | 2 | |
| | | 呼吸器疾患の看護 | | 2 | |
| | | HIV看護 | | 2 | |
| | | がん看護（緩和ケア・化学療法） | | 4 | |
| | | 災害看護（講義・訓練） | | 8 | |
| | | 就職説明会 | | 4 | |
| | 看護の日 | ・看護学生として、社会に「看護」をアピールすると共に、看護を考える機会とする。運営は学生自治会（2年生）が中心となり、1年次後期から準備をおこない、毎年5月に実施している。看護に関する様々なテーマを設け、高齢化社会・災害看護等、世の中の情勢にも合わせて企画・運営している。 | 6 | 6 | 6 |
| | 看護学会 | ・学会に参加することにより、研究発表、シンポジウム、ﾎﾟｽﾀｰｾﾝｼｮﾝなどを通して、看護について視野を広めるとともに、専門職業人として生涯研鑽する姿勢を学ぶ。平成30年度までは3年次での参加であったが、今年度より2年次に設定し、様々な施設の看護やプレゼンテーションの技術を知ることで、今後の就職活動や看護研究に活かせるようにしている。 | | 6 | |
| | 看護技術演習 | ・科学的根拠に裏付けられた技術の習得を目指し、到達度を評価することで学習意欲の向上を図る。学年ごとに強化したい技術や実習前後の演習で設定している。ロールプレイ、模型の利用、ハイブリットシミュレーターなど教育方法の工夫も図っている。 | 18 | 24 | 18 |
| | 特別講演 | ・各分野の専門職者の考えを知ることで、看護の学習の動機付けとする。日々の看護、災害時の状況など実体験をもとに看護師からの講演や、SNSのトラブル、社会人基礎力に関するものなど看護の分野以外の講師も多く迎えている。 | 4 | 4 | 4 |
| | 学習強化 | 看護実践者として必要な知識および技術を強化する。（1・2年次：既習内容の強化、3年次国家試験対策） | 6 | 6 | 20 |
| 合　計(学校行事も含め) | | | 61 | 113 | 64 |

| | |
|---|---|
| 自治会活動 | 学生の主体性を育成するため、年間を通して活動する。自治会役員と自治会員から構成される。自治会役員は年2回（前期・後期）選挙によって決定され、ほとんどが立候補である。役員は、会長・副会長・書記・会計・常任委員・会計監査である。学年ごとに各委員会も設置されている。これも年2回選出される。<br><br>主な活動内容<br>通年：美化委員による清掃活動（チェックリストの活用）、図書委員による図書室の利用案内、防災委員による物品点検<br>4月：始業式、新入生オリエンテーション<br>5月：看護の日記念行事、自治会総会<br>7月：終業式<br>9月～10月：始業式、学校祭・戴帽式後の祝賀会・自治会総会<br>12月：クリスマス行事（母体病院での演奏会、クリスマスカード配布）、終業式<br>1月：始業式<br>3月：卒業式（送辞）、卒業生を送る会、終業式 |

セーフティネット医療では、学生が看護をイメージし、看護の力や魅力を考える機会となっている。「私もあの人のようになりたい」と将来の目標や学習意欲を高め、就職（帰属意識）や実習にも役立っている。看護の日は、看護に関する考えや学習を深めるとともに、学年間で協力することや人に伝わる内容や方法などを考えることで創造力や組織として動くことなどを学ぶ機会となっている。5月の開催であり3学年で運営するため、学生の絆も深まっている。看護学会では、おこなった看護を根拠をもって振り返り、言語化することの大切さや、プレゼンテーションの方法を学ぶことができ、看護研究の科目の学習ともつながっている。学習強化や看護技術演習では、知識の定着と技術力の強化を図ることで、自己の課題の抽出と、反復して学習することや、技術練習の大切さを実感する機会となっている。特別講義では、看護分野だけに限定せず、SNS関連、多職種による講義、社会人基礎力等テーマを設けており、「身近なところにリスクがある」「視野が広がった」「卒業前に聴けてよかった」と学生からの反響も大きい。自治会活動においては、組織として動き、学習環境を整えることを通して、学生の主体性を引き出し、学校生活をよりよくできるようにしている。（例：清掃チェックリストによる点検、国家試験の応援ボードの作成、定期的な防災点検など）

# 技術遅出勤務による技術指導状況

【各月技術指導平均人数（人）】




| 指導技術内容 |
|---|
| 4月 〈２・３年生実習前技術練習〉<br>シーツ交換・血圧測定<br>排泄介助・おむつ交換<br>小児バイタルサイン測定 |
| 5月 〈１年生授業前後練習・２年生実習前練習〉<br>清潔援助：洗髪・清拭・手浴・足浴<br>滅菌操作（技術試験）・シーツ交換<br>体位変換 |
| 6月 〈１年生授業前後練習・２年生実習前練習〉<br>清潔援助：洗髪・清拭・手浴・足浴<br>滅菌操作（技術試験）・シーツ交換<br>体位変換・車椅子移乗（技術試験） |
| 7月 〈１年生授業前後練習・２年生実習前練習〉<br>清潔援助：洗髪・清拭・手浴・足浴<br>車椅子移乗（技術試験）・血圧測定 |
| 9月 〈１年生授業前後練習・３年生実習前練習〉<br>清拭（技術試験）<br>車椅子移乗 |
| 10月 〈１年生授業前後練習・３年生実習前練習〉<br>母性実習技術チェック<br>血圧測定（技術試験）<br>清拭（技術試験） |
| 11月 〈１年生授業前後練習・実習前技術練習<br>２年生実習前練習〉<br>血圧測定（技術試験）・清拭（技術試験）<br>内服・清潔援助・排泄介助 |
| 12月 〈１年生授業前後練習・実習前練習<br>・３年生オスキー練習〉<br>シナリオ使用（オスキー練習）<br>採血・点滴準備（技術試験）<br>血圧測定・清潔援助・排泄介助 |
| 1月 〈１年生授業前後練習・実習前技術練習<br>２年生実習前練習〉<br>点滴準備（技術試験）<br>血圧測定・清潔援助・排泄介助 |
| 2月 〈１年生授業前後練習〉<br>点滴準備(技術試験)<br>採血（技術試験） |
| 3月 〈１年生授業前後練習〉<br>点滴準備（技術試験） |

３．コミュニケーションが良好で相互協力体制が充実した教員組織の構築

１)教員間の業務調整によるタイムリーな学生支援体制

遅出勤務者のうち１名が、放課後の技術指導担当として学生支援ができるよう業務調整を行っている。指導状況として、平均23名程度の技術指導を行っている。技術練習内容は、実習前技術練習・技術試験練習が多く、タイムリーに助言を得ることで効果的な技術習得につながっていると考える。

独立行政法人国立病院機構　大阪医療センター附属看護学校

# 2019年度　オープンキャンパス等計画

## ＜看護の日記念行事＞

5月11日(土)　9:30～12:30 学生主催

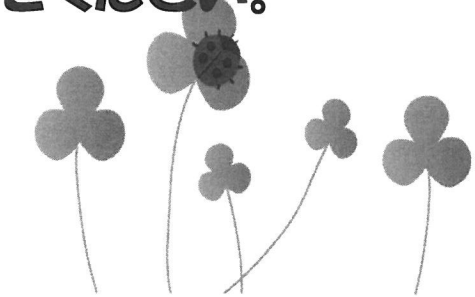
## ＜オープンキャンパス＞　開催時間13:30～16:00 事前申し込み不要です。

① 6月23日(日)
② 7月21日(日)
③ 8月 6日(火)
④ 8月25日(日)
⑤ 9月29日(日)

6月23日のみ事前申し込みをお願いします。
TEL・Fax・Mailのいずれかでお申し込みください

連絡先
TEL:06－6943－1051
Fax:06-6946-3472
Mail:408-kan-gaku@mail.hosp.
※お名前と連絡先をお知らせください。

※日程を変更する場合があります。
学校ホームページで確認の上、ご参加下さい。
http://www.onh.go.jp/kan-gaku/



令和元年度　学校関係者評価

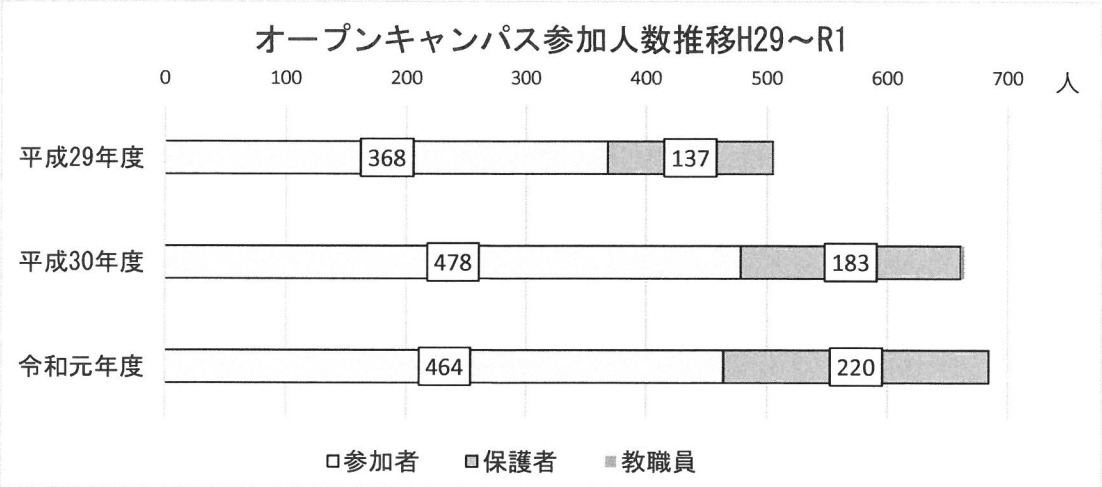
看護学校目標４．国立病院機構及び社会に貢献できる学生の確保と育成

１）効果的な学生募集活動

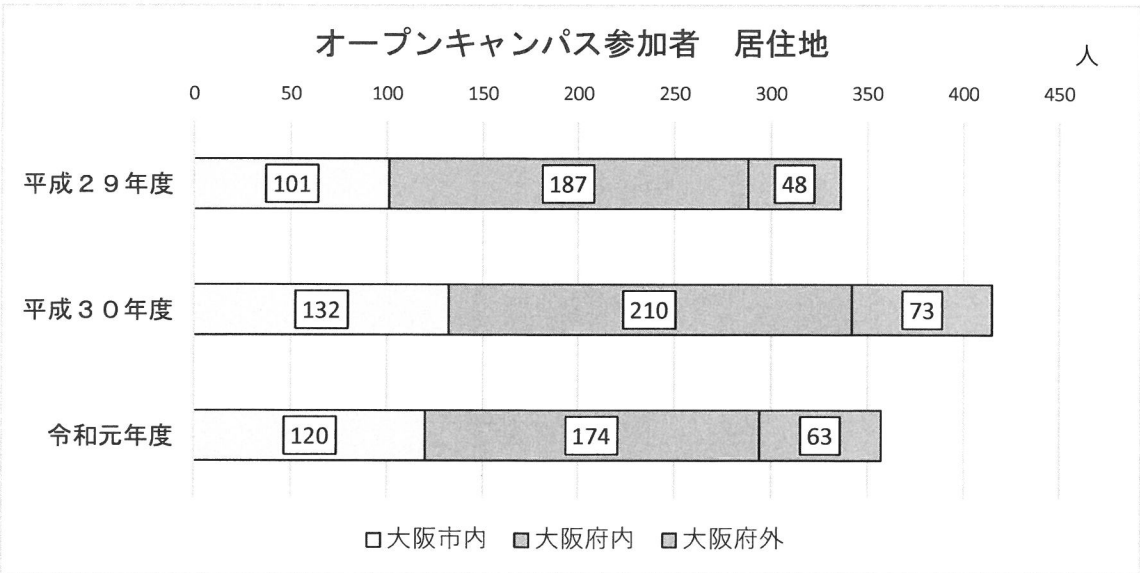
（１）オープンキャンパス・公開授業の実施回数

| | 実施回数 |
|---|---|
| 平成29年度 | ７回（公開授業２回） |
| 平成30年度 | ６回（公開授業２回） |
| 令和元年度 | ６回（公開授業２回） |

(2) オープンキャンパス参加者推移




（３）オープンキャンパス参加者の居住地



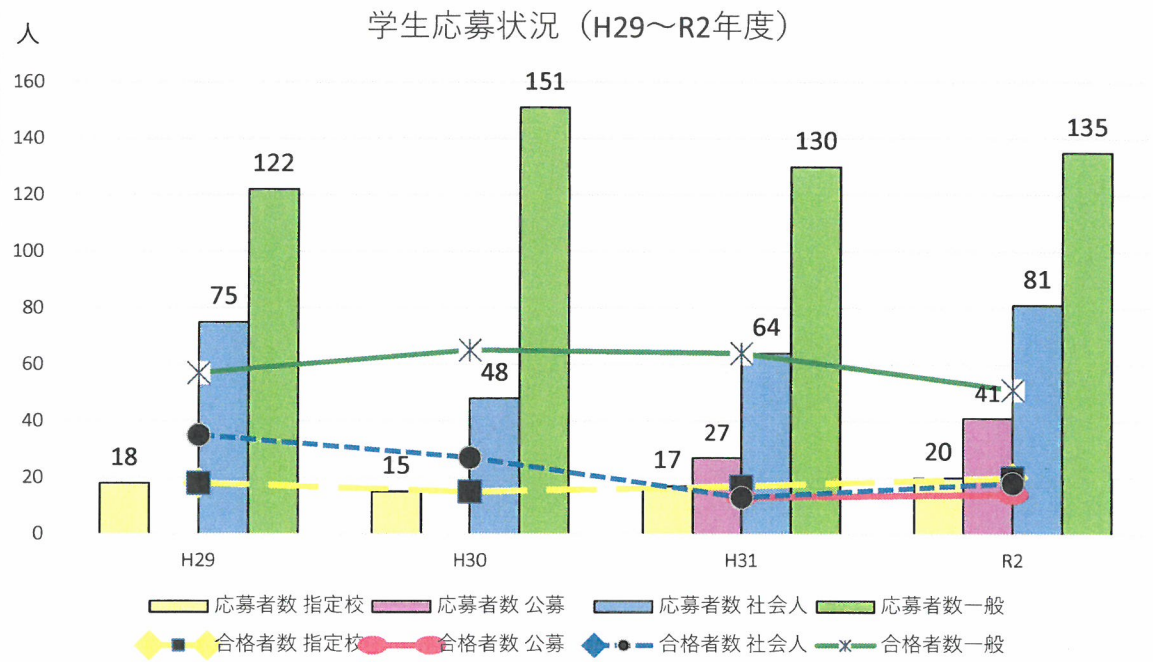

【分析結果】

・効果的な学生募集を行うため、OCの実施を年６回（うち公開授業２回）を実施している。平成29年度より実施回数を減らしたが、OCの参加者は増加しており、OCが効果的に実施できていると考える。

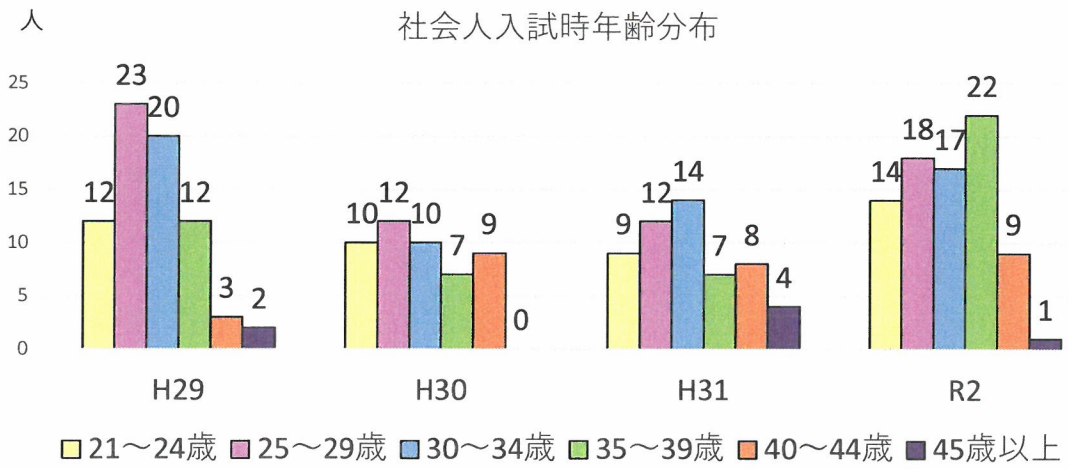
・OCに参加している学生は、大阪市内、大阪府内が大半を占めている。その為、近隣の高校への学校募集活動やHPを活用し学生募集を実施している。

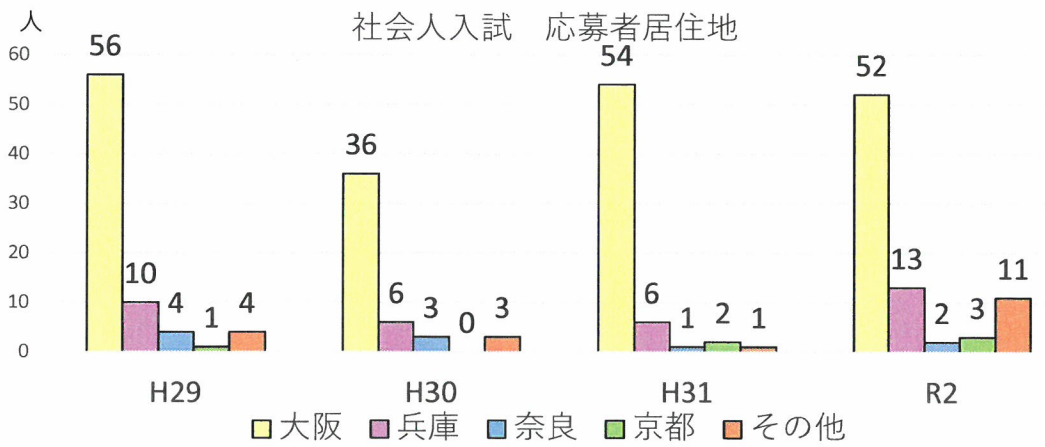
## ２）国立病院機構への帰属意識の醸成

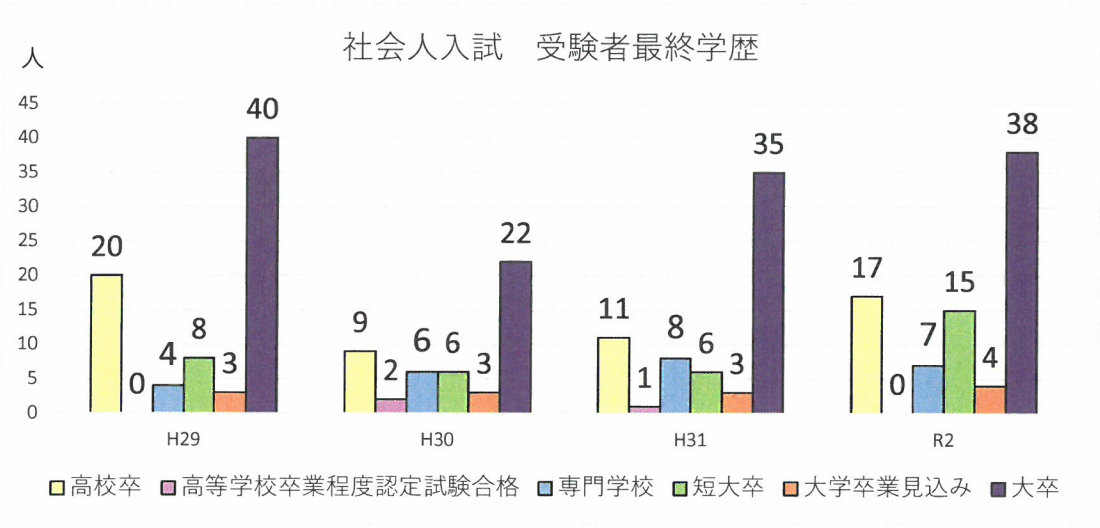
### （１）学生募集状況（受験応募者・合格者の推移）



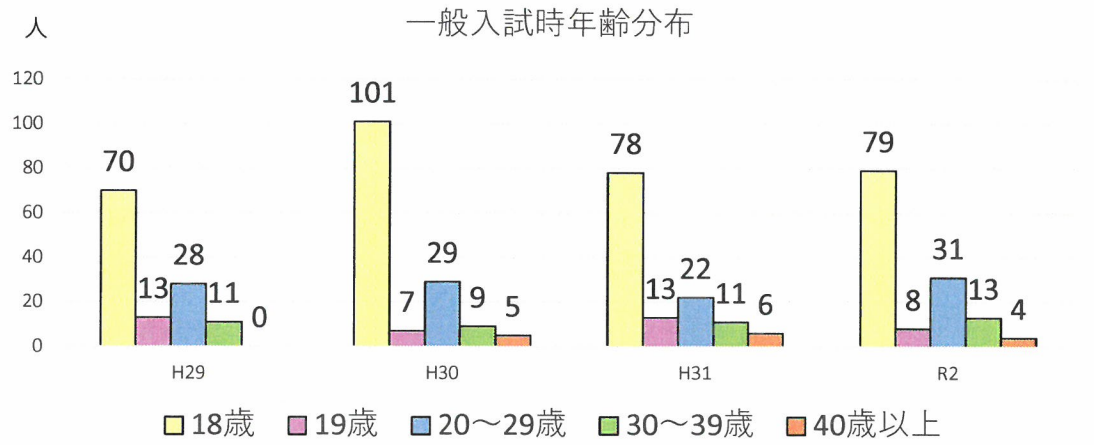

### （２）受験別応募状況　社会人入試

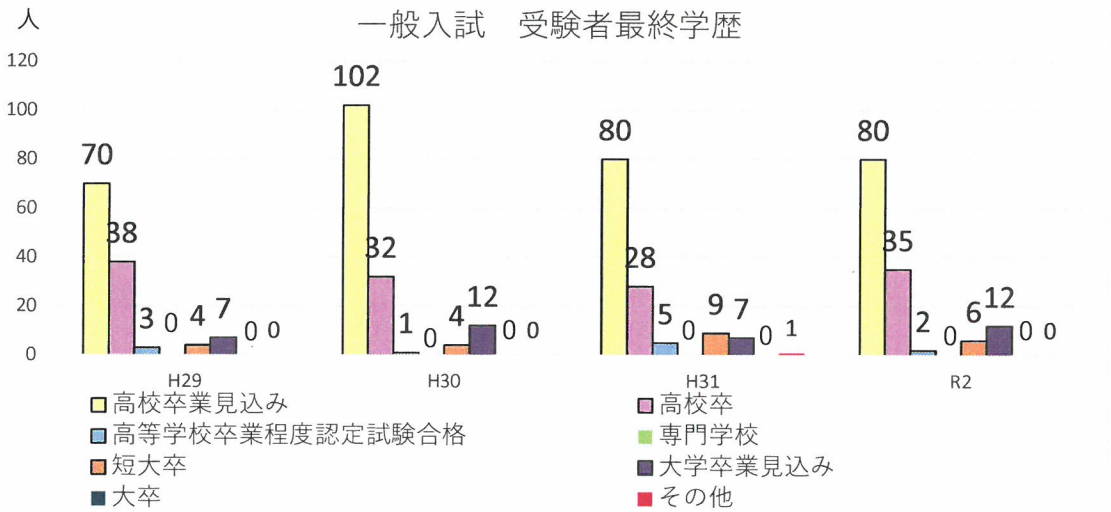





**（３）受験別応募状況　一般入試**




【分析結果】

・学生応募状況の推移より、推薦・社会人・一般入試ともに応募者数は同程度で推移している。
　平成３１年度より公募推薦を開始し、応募者数は増加している。

・社会人入試は、２０歳代、３０歳代が多く、大卒見込、大卒者の占める割合が高い。
　一般入試は、高校卒業見込みの学生の割合が高い傾向にある。看護師の育成に対する貢献につながっていると考える。

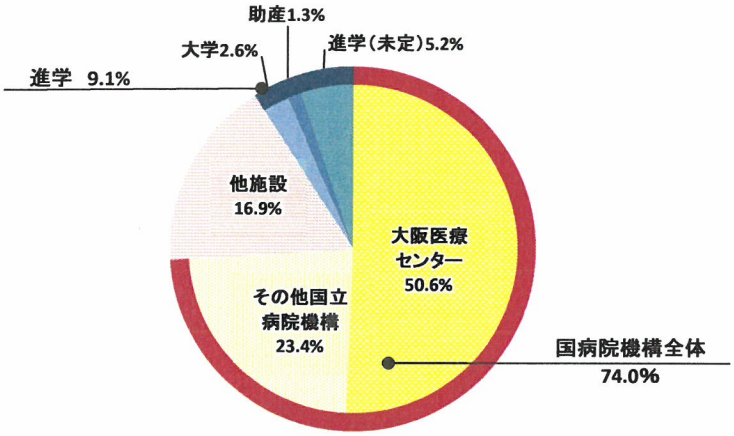
# 進路状況一覧

## 【就職・進学の人数】

n＝77

| | 就職・進学の別 | | | 令和元年度人数 | % |
|---|---|---|---|---|---|
| 学生数 | 就職 | | | 70 | 90.9 |
| | | 国立病院機構 | | 57 | 74.0 |
| | | | 大阪医療センター | 39 | 50.6 |
| | | | その他 | 18 | 23.4 |
| | | 他施設 | | 13 | 16.9 |
| | | 大阪府内への就職 | | 57 | 81.4 |
| | 進学 | | | 7 | 9.1 |
| | | 進学（助産） | | 2 | |
| | | 進学（大学） | | 1 | |
| | 未定 | 進学（未定） | | 4 | 5.2 |
| | | 就職しない | | 0 | |
| | | | | 77 | 100.0% |

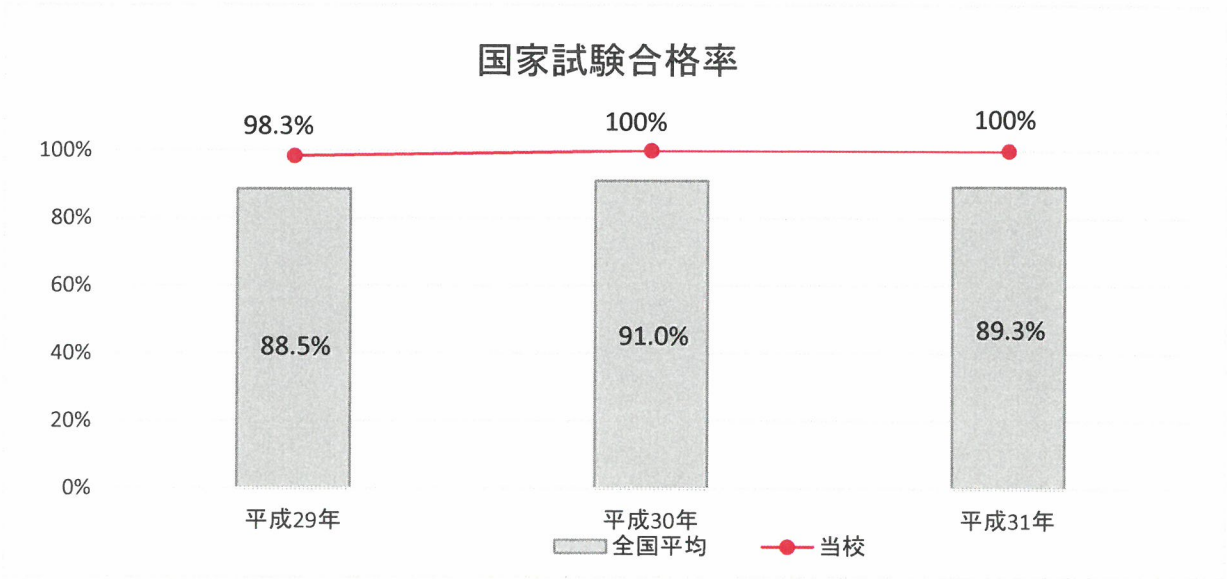
令和元年度（N=77）




過去3年間、9割以上の学生が就職している。そのうち、令和元年度、平成30年度では、就職者の約半数が大阪医療センターへの就職、その他施設を合わせると約8割の学生が国立病院機構へ就職している。当校では、母体施設である大阪医療センターをはじめ、大阪刀根山医療センター、奈良医療センターなど近隣の機構施設での実習を行っている。実習を通して各施設の看護の特徴を知る機会となり、就職先の選択に繋がっている。

# 看護師国家試験合格状況

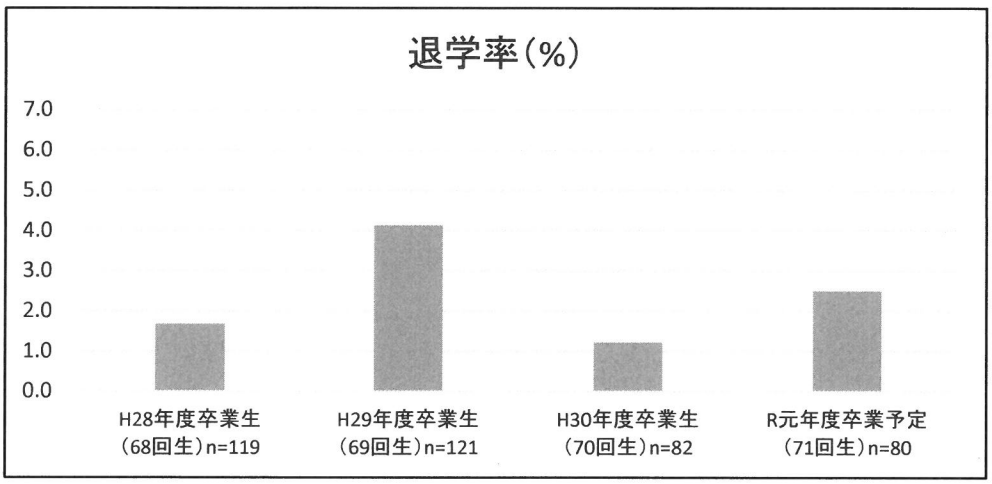
| | 平成31年 | 平成30年 | 平成29年 |
|---|---|---|---|
| 当校 | 100% | 100% | 98.3% |
| 全国平均 | 89.3% | 91.0% | 88.5% |




講義・演習・実習での指導に加え、2年次より計画的に模擬試験を実施している。3年次には国家試験形式、必修問題強化形式など年間6回の模擬試験を実施し、苦手分野の分析を行っている。また、分析結果をもとに、3年次には医師・看護師・薬剤師・教員による国家試験教科講義を行い、全員合格を目指している。その結果、当校は全国平均と比較し、高い国家試験合格率を保っている。

# 退学率

| 卒業年度 | 入学者数（人） | 退学者数（人） | 退学率（%） |
|---|---|---|---|
| H28年度卒業生<br>（68回生）n=119 | 119 | 2 | 1.7 |
| H29年度卒業生<br>（69回生）n=121 | 121 | 5 | 4.1 |
| H30年度卒業生<br>（70回生）n=82 | 82 | 1 | 1.2 |
| R元年度卒業予定<br>（71回生）n=80 | 80 | 2 | 2.5 |




過去4年間の退学者数は、H29年度卒業生5人（4.1%）が最も多いが、その他の年度は1～2人（2%前後）と少ない人数である。

# カリキュラム検討会議　内容一覧

ねらい:カリキュラム改正に向け、教育内容の精選ができるよう教員全体で意見の共有ができるための取り組みを検討する
業務改善に取り組み、効果的で効率の良い業務を目指す

構成員：副学校長・教育主事・教員

| | 議題 | 内容 |
|---|---|---|
| 4月 | 1．学生アンケートの活用について<br>2．カリキュラム検討に必要な文献の活用方法<br>3．教育理念、主要概念の確認・・・夏休みの検討事項の準備 | 1．満足度調査の意見、実習評価、意見を活用し、学生アンケート分析と学年ごとの回答の出し方について検討<br>2．経年によって読み取り方も異なるため共通認識が必要である。学年毎でディスカッションする機会を設けていく。根本的な考え方の土台として、資料を各自、読み込み、夏に検討できるよう準備してお |
| 5月 | 1．カリキュラム検討に必要な文献の活用<br>1）各学年からの意見交換 | 各学年から出たキーワードは、「倫理」「臨床判断」「多職種連携」「コミュニケーション」「アサーティブ」「アクティブラーニング」であった。<br>当校が考える看護師像を見直し、文章化するにあたり、これらのキー |
| 6月 | 1．教育目標・卒業生像の検討<br>1）各学年からの意見交換 | 教育目標・卒業生像について、検討が必要な点の考え方、キーワードをもとに考えたこと、追加・修正・削除する点など各学年で意見をまとめたものを基に、意見交換実施 |
| 7月 | 1. 今後の計画について（8月取り組み内容）<br>2. 美化（清掃点検）について<br>3. 業務改善について | 1．学校間評価について（夏季休業中に意見交換実施予定）<br>2．美化(掃除点検）について<br>3．業務改善について：教員の研究費の活用について |
| 8月 | 1．自己点検・自己評価から考える課題・活用するべき情報について<br>（評価2の項目から検討していくこと） | ・自己点検・自己評価から考える課題・活用するべき情報について意見交換実施 |
| 9月 | 1．望ましい卒業生像を意識した取り組みから考えるカリキュラム上の課題について<br>2．ルーブリック評価研修を終えて今後取り組みたいことについて | 1．1）自己の担当する講義科目について、取り組みや課題を考えた結果について意見交換<br>2）卒業生に期待する看護師像として今後検討が必要な点について意見交換<br>〇教員会議での意見交換によって各教員がどのような点に検討が必要と考えているかを出し合い、卒業生像を具体化していくこととする。<br>（次回の検討課題として各学年で意見交換すること<br>2．ルーブリック評価研修を終えて今後の取り組みについて意見交換<br>〇ルーブリック評価研修を受けて、講義での活用、実習科目ごとの評 |
| 10月 | 1. 望ましい卒業生像について<br>2．望ましい卒業生像に沿った実習目標・内容について | 各学年で検討した内容について、意見交換 |
| 11月 | 休会 | |
| 12月 | 1．カリキュラム改正にむけて<br>1）看護基礎教育検討会報告の理解にむけた検討<br>2）カリキュラムの評価と改善（逆向き設計の実施に向けた検討） | 次回の教員会議で、伝達講習および意見交換の時間を設ける。それまでに各自で、看護基礎教育検討会報告書を読みこんで、理解したこと、関心をもったこと、疑問をもったことなど、最低２つ意見を出せるように事前準備しておく。（別紙課題シートを作成して配布す |
| 1月 | 1. カリキュラム改正にむけて<br>1）教育内容精選の枠組みについて | 看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン　別表3により示されている考え方、留意点について、当校の教育理念との対比し十分に理解することや、表されている用語についての共通理解を深めていく必要がある |
| 2月 | | |
| 3月 | | |

5．カリキュラム改正に向けた準備

・カリキュラム改正に向け、カリキュラム改正に係る研修に参加し各自が理解を深めるとともに、教員会議で伝達を行い全体での共有を行っている。

・カリキュラム改正に向けた検討会での検討内容・課題を各学年で取り組み、全体で共有することで、カリキュラム評価・教育内容の精選に